

(2017年10月版)

バプテスマ・クラス

(入会クラスを含む)



八田西キリスト教会



〒599-8265

堺市中区八田西町2-15-3

☎ 072-270-8250

目 次

第1課	バプテスマとは	4
	1. バプテスマについて	
	2. バプテスマの意味	
	3. バプテスマを受けるための備え	
	4. バプテスマを受けてから	
第2課	救いとは	6
	1. 「本当の神とはどのような御方なのか」ということを知る	
	2. 「神の前に、私たちはどのような者なのか」ということを知る	
	3. 「神の恵みによってのみ救われる」ということを知る	
	<まとめ>	
第3課	教会とは	11
	1. 共同教会(=見えない教会)	
	2. 地域教会(=見える教会)	
第4課	八田西キリスト教会とは	14
	1. 八田西キリスト教会の立場	
	2. 八田西キリスト教会の教会組織	
	3. 八田西キリスト教会の信仰告白	
第5課	八田西キリスト教会員の責任とは	19
	1. 神を礼拝する	
	2. みことばを学ぶ	
	3. 伝道する	
	4. 神から与えられた賜物を生かして、神と教会とに仕える	
	5. その他	
	① 聖餐式への参加	
	② 献金に関して	
	③ 会員総会への参加	

第1課 バプテスマとは

1. バプテスマについて

ある一部の人たちは、「洗礼(=バプテスマ)を受けることが、キリスト教に入信することである」とか、「バプテスマを受けることで、クリスチャンになれる」というような、間違った理解を持っています。しかし、聖書のみことばは、バプテスマがどのような意味合いを持っているのか、ということをはっきりと教えてくれています。これからバプテスマを受けようとする(あるいは、転入会しようとする)皆さんは、バプテスマがどのような意味を持っているのか。また、なぜ、バプテスマを受ける必要があるのかということなどを、しっかりと理解して下さる必要があります。

2. バプテスマの意味

新約聖書(特に、使徒の働き)を通して、私たちは、「バプテスマとは、神がクリスチャンの内になして下さった恵みの御業を、人々の前で公にする行為である」ということを見取することができます。すなわち、神によって救われたということを、人々の前で明らかにすることがバプテスマなのであって、決して、救われるための手段や行為ではありません。

この「バプテスマ」という言葉は、ギリシャ語の「βαπτίζω」(バプティゾー)から来ていて、その意味は「浸す(水の中に浸す、浸して清める)、染める、沈める、洗う、浸礼する」などです。つまり、この言葉は、ただ単に、「水がかかる」とか、「水と接触する」という以上に、水の中にどっぷりと浸かる様子を表しているのです。と言うのも、ローマ 6:4 に、『私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。』とあるように、「水の中に浸ること」は、かつて、神に逆らい、罪人であった自分がキリストと共に死んで、葬られたことを表し、また、「水の中から引き上げられること」は、その自分がキリストと共に、死よりよみがえったことを象徴しているのです。それゆえに、当教会では全身を水に浸す「浸礼」(⇔滴礼)を施しています。

また、バプテスマとは、神に対する従順の証でもあります。事実、主イエス様ご自身が、「イエス・キリストを信じ、救われた人々はバプテスマを受けるように」と命じておられます(マタイ 28:19-20)。また、バプテスマは初代教会においても守り行われていました(使徒 2:38-41; 8:12-13,36-38; 9:18; 10:47-48; 16:15,33; 18:8; 19:5)。それゆえに、キリストを救い主として受け入れ、主に従っていくことを決心した私たちクリスチャンにとって、バプテスマとは受けても受けなくても良いというものではなく、私たちの主に対する従順の証なのです。

以上のことから、はっきりと分かることは、バプテスマとは、すでに自分の罪を悔い改め、救い主であるイエス・キリストを信じた者が、その信仰と従順の証として行うものであるということです。I ペテロ 3:21、『…バプテスマは肉体の汚れを取り除くものではなく、正しい

良心の神への誓いであり、イエス・キリストの復活によるものです。…』⇒このように、バプテスマとは、誰であっても受けられるものではなく、また、救いを得るためやキリスト教に入信するために受けるものでもありません。イエス・キリストを自分の主であり、救い主とした者だけが、神から与えられた救いと神への従順の証として受けるものなのです。

3. バプテスマを受けるための備え

私たちがバプテスマの前に考えなければいけないことは、バプテスマを受けようとしている方が、本当に救われた者となっておられるのか否かということです。なぜなら、前述したように、バプテスマとは、キリストを信じて救われた者が、その証として受けるものだからです。また、八田西キリスト教会でバプテスマをお受けになった方は、入会式を経て、当教会の教会員となります。それゆえに、あなたの所属教会となる八田西キリスト教会の教理、また、教会観などを、このバプテスマ・クラスでしっかりと学ぶことが必要です。そして、ちゃんと、同意 & 納得した上でバプテスマを受けて(=あるいは、転入会して)くださいますようお願いいたします。

4. バプテスマを受けてから

上記のように、バプテスマとは信仰の出発点でも、あるいは、終着点やゴールでもありません。ただの通過点にしかならないのです。私たちクリスチャンは、この世の歩みを終えて天国へと導かれるまで、主に従順であり続けることが要求されています。バプテスマだけでなく、主の忠実なしもべとして歩み続けましょう。また、八田西キリスト教会の教会員となった皆さんは、益々、その責任を自覚し、私たちが救ってくださった神様の栄光のため、兄弟姉妹の霊的成長のための教化や交わりに…、また、福音宣教に…、率先して、励んでいきましょう。

第2課 救いとは

私たちは神から罪を赦され、神との和解を得ることがなければ、決してバプテスマを受けることや、神のお建てになった教会の一員となることはできません。なぜなら、救いを受けることがなければ、私たちは神に敵対する存在(ローマ 5:10; エペソ 2:1-3; ヤコブ 4:4)であるからです。では、どのようにして私たちは罪を赦され、神と和解し、救いを得ることができるのでしょうか？

<ローマ 5:10>

もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。

1. 「本当の神とはどのような御方なのか」ということを知る

① 神とは唯一の創造主である

過去にどれほどの功績があろうと、また、いかに秀でた偉人であろうと、人間が死後、神や神に代わるような存在になるなどということは絶対に有り得ません。また、私たちの周りに存在する超自然的な能力を持ったような、あらゆる生き物も、神によって造られたものであって神ではありません。まして、私たち人間が自分たちの必要に応じて、作り出したものも神であるはずがありません。真の神様とは、私たち人間や自然界、また、宇宙を含むすべてのものをお造りになられた創造主だけなのです(創世記 1:1; ヨハネ 1:3; イザヤ 44:9-17; 45:18; 使徒 17:24-29; ローマ 1:20-23)。

<イザヤ 45:18>

天を創造した方、すなわち神、地を形造り、これを仕上げた方、すなわちこれを堅く立てた方、これを茫漠としたものに創造せず、人の住みかかにこれを形造った方、まことに、この【主】がこう仰せられる。「わたしが【主】である。ほかにはいない。

ローマ 9:20-21 で、『20 しかし、人よ。神に言い逆らうあなたは、いったい何ですか。形造られた者が形造った者に対して、「あなたはなぜ、私をこのようなものにしたのですか」と言えるのでしょうか。 21 陶器を作る者は、同じ土のかたまりから、尊いことに用いる器でも、また、つまらないことに用いる器でも作る権利を持っていないのでしょうか。』と書かれてあるように、私たちをお造りになってくださった神様にこそ、すべての主権があり、このお方こそがすべての基準なのです。

② 神とは完全に聖いお方である

神は私たち人間のように人を欺いたり、偽りを言ったりするような御方ではありません。罪とは全く正反対の所にいらっしゃる神は、そのようなことを行われたいことはもちろん、心に抱くことさえも無いのです。この御方は、罪を犯したことの無い天使たちにさえ、そ

の聖さゆえに畏れられる完全なる聖さをお持ちになった存在なのです(イザヤ 6:1-3)。このように、完全な聖さを持つ神は、御自身の性質に反するいかなる罪をも裁かずに見過ごすことはなさいません(レビ記 11:44-45; ヨシュア記 24:19-20; I サムエル記 2:2; 6:20; I ペテロ 1:16)。

<ヨシュア記 24:19-20>

19 すると、ヨシュアは民に言った。「あなたがたは【主】に仕えることはできないであろう。主は聖なる神であり、ねたむ神である。あなたがたのそむきも、罪も赦さないからである。

20 もしあなたがたが【主】を捨てて、外国の神々に仕えるなら、あなたがたをしあわせにして後も、主はもう一度あなたがたにわざわいを下し、あなたがたを滅ぼし尽くす。」

2. 「神の前に、私たちはどのような者なのか」ということを知る

① 罪を犯した罪人

私たち人間や天地万物をお造りになられた神は、どういった目的でこれらのものを創造されたのでしょうか？それは、イザヤ 43:7 で、『わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。』と教えられているように、この偉大なる神の栄光、つまり、その素晴らしさを明らかにするためであったのです。その目的を果たすためには、私たちがこの神を愛し、その命令の全てに逆らうことなく、喜んで服従することが必要です(ヤコブ 2:10)。しかし、現実はどうでしょう？ 私たち人間は、この神を信じないだけでなく、この御方が私たちに望んでおられる、聖く正しい生き方を無視して、自分勝手に、その快樂のままに生きるということを選択して歩んでいます。この神を信じず、神の命令に逆らった生き方こそ、神に対する罪なのです(ローマ 1:29-31; 3:10-12,23)。

② 神によって裁かれる運命にある罪人

神に対して罪を犯している人を、神は見逃さずに必ず裁かれます。その裁きは公正で、誰一人として、その裁きの場で言い逃れすることはできません。神は、私たちが実際に行ったことだけでなく、心の中で抱いた不純な思いに至るまで、それら全ての罪を確実に裁かれます。そして、その裁きの結果、人は地獄ではっきりと意識を持ったまま、永遠に苦しみを受け続けるのです(ヘブル 4:13; 使徒 17:31; 黙示録 20:10-15)。

また、非常に残念なことですが、死後、裁きに落ちた者が、いかなる方法でもってしても、その裁きから逃れたり、また、救いを得られたりするなどということ、みことばは教えておりません(ルカ 16:19-31; マタイ 25:31-46)。

<ヘブル 4:13>

造られたもので、神の前で隠れおおせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちがこの神に対して弁明をするのです。

<黙示録 20:10-15>

10 そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。

11 また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。

12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。

13 海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのおの自分の行いに応じてさばかれた。

14 それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。

15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

③自分で自分自身を救えない罪人

人は、いかなる努力や善行をもってしても、神の裁きから逃れることはできません。なぜなら、私たちが行うどのような努力も善行も、決して、完全なる神を満足させることのできる「完全なもの」では無いからです。私たちは、「決して罪を犯さない…、完全な聖い者」にはどうしてもなることができないのです。私たちが、どんなに強く決心しても、あるいは、その意志を貫くために自らを鍛えても、また、どのような素晴らしい慈善活動をしようと、どれほど多大な寄付や献金をしようと、心の中にひそむ罪の力を完全に押さえ切ることはできません。この事実は、罪の裁きと、その力から逃れる方法が、私たちの内には無いことを教えています。救いに関して、私たちは全く希望の無い無力な存在なのです(イザヤ 64:6; エレミヤ書 17:9; ローマ 3:20,23)。

<エレミヤ書 17:9>

人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。

<ローマ 3:20,23>

20 なぜなら、律法を行うことによっては、だれひとり神の前に義と認められないからです。律法によっては、かえって罪の意識が生じるのです。

23 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、

3. 「神の恵みによってのみ救われる」ということを知る

①「神の選び」によって(私たち人間の功績や持って生まれた価値によるのではない)

近年、多くのキリスト教会では、『わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。…』(イザヤ 43:4)というようなみことばを引用するなどして、「あなたには価値がある！だから、神はあなたを救い出してくださった！」というようなメッセージが語られる傾向にあります。しかし、イザヤ書 43 章の文脈を見ても分かる通り、神は、私たち人間の内に何らかの価値を見出したから、救いの道を備えてくださったのではあ

りません。

元々、神様の栄光を現すために造られた私たち人間でしたが、私たちの罪が、それを台無しにしてしまったのです。しかし、そんな私たちを神が、みこころの内に選び、救い出してくださいました。だから、救いとは、「神様の恵み」なのです。私たち人間の側に、救われるべき価値があったから、神が救ってくださったのではありません。元々の価値を失っていた私たちを、神が尊いイエス様のいのちと引き換えに買い取ってくださり、再び、価値あるものへと変えてくださったのです。だから、私たちは神様をほめたたえるのです。

<エペソ 1:4-5>

4 すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前から彼にあって選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。

5 神は、みむねとみこころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。

< I コリント 1:26-29 >

26 兄弟たち、あなたがたの召しのことを考えてごらんください。この世の知者は多くはなく、権力者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。

27 しかし神は、知恵ある者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。

28 また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。

29 これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。

②救い主イエス・キリスト

私たち人間には決してできなかったことを、神はなしてくださいました。決して、自分自身を救うことができなかつた私たちに対して、神は救い主をこの世に送ってくださったのです。それが救い主イエス・キリストです。本来、私たちが受けなければならなかつた罪の裁きを、十字架上で、罪の無い神のひとり子が代わって受けてくださいました。私たちが受けなければならぬ罪の報酬である死を、罪を持たないがゆえに、死ぬ必要の無かつたお方が、私たちの身代わりに死んでくださったのです。

だから、聖書のみことばは、このイエス・キリストの身代わりの死のことを、「贖い」(あがない)と呼んでいます(マタイ 20:28;ローマ 3:24)。これは、罪の奴隷となつていた私たちを、神がイエス様のいのちによって、私たちを買い取ってくださったということです。この身代わりの死のゆえに、私たちの罪は完全に赦されるのです。イエス・キリストのいのちは、私たちのどんな罪をも赦すのに余りあるほど、価値あるものなのです。

<マタイ 20:28>

人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであると同じです。

<ローマ 3:24>

ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。

③信仰による救い

もし、あなたが、自分は神に逆らう罪人であること、永遠の裁きに向かっていること、自分自身を救うことができないこと、自分の罪が赦されるのは、あなたの身代わりとなって十字架で死に、約束通りに、3日目によみがえられたイエス・キリストによるだけであること、これらのことを心から認め、救われることを心から望むなら、罪を悔い改めて、イエス・キリストをあなたの神、救い主として信じ受け入れることです。これまでの神に逆らう生き方をやめ、真の神であり、全ての主であり、唯一の救い主であるイエス・キリストをあなたが信じ、このお方に従っていく決心をするなら、その信仰があなたを救います(ヨハネ 3:16; ローマ 10:8-13; I コリント 15:1-4)。決して、あなたの行う良い行いがあなたを救うのではありません。神に逆らって生きてきた私たち罪人が、これまでの生き方をやめて、神に従って生きていこうと、生き方の方向を転換するのです。

<ヨハネ 3:16>

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

<まとめ>

以上のように、私たちは、①聖書の教える神こそが唯一の創造主であられ、またそれゆえに、主権者でもあられ、また、完全に聖なるお方であるということを学びました。この御方は、②私たち罪人を裁いて当然な御方だったのですが、その大いなる愛と憐れみのゆえに、私たちを愛し、恵みとして、イエス・キリストにある救いを私たちに与えようとしてくださったのです。③このイエス・キリストのなしてくださった救いの御業を私たちは受け入れ、イエスを救い主と信じ、生涯をかけて、この主に従順に従っていく決心をしたのです。この救いを受けたからといって、私たちが今後、罪を全く犯さないような完全な者になったという訳ではありません。しかし、このイエス・キリストの身代わりの死ゆえに、それを信じる者の罪は完全に、また永遠に赦されるのです。そして、いつの日か、私たちは、この主にお会いし、完全な者へと変えられるその時まで、自らを聖くしようと努力し続ける者となったのです(Iヨハネ 3:2-3; マタイ 5:6)。

< Iヨハネ 3:2-3 >

2 愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。

3 キリストに対するこの望みをいだく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。

第3課 教会とは

教会について

私たちがバプテスマを受ける(=あるいは、転入会する)ことによって、正式な教会員となる教会とはどのようなところなのでしょう?「教会」について考えるにあたって、まず、「公同の教会」と「地域の教会」とを、はっきりと区別することが大切です。

1. 公同教会(=見えない教会)

① 公同教会とは

これは、「神によって罪から救い出された者たちの集まり」を言います。ここには教団や教派、神学や教理の違いなどによる区別などはありません。ただ、聖霊のバプテスマを受けて、キリストの体に加えられた真のクリスチャンだけの集まりです。この、目には見えない公同の教会のことは、『キリストのからだ』(Ⅰコリント 12:12-27;Ⅰペソ 5:30)、『聖なる国民、聖徒』(Ⅰペテロ 2:9-10;ローマ 8:27;Ⅰコリント 1:2;コロサイ 3:12)、『神の神殿、神の宮、聖なる宮』(Ⅰコリント 3:16-17;Ⅱコリント 6:16;Ⅰペソ 2:21-22)、『(キリストの)花嫁、小羊』(Ⅱコリント 11:2;黙示録 19:7-9)等と呼ばれています。

<Ⅰコリント 12:12-13、27>

12 ですから、ちょうど、からだの一つでも、それに多くの部分があり、からだの部分はたとい多くあっても、その全部が一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。

13 なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。

27 あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。

<Ⅰペテロ 2:9-10>

9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。

10 あなたがたは、以前は神の民ではなかったのに、今は神の民であり、以前はあわれみを受けない者であったのに、今はあわれみを受けた者です。

<Ⅰペソ 2:21-22>

21 この方にあって、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、

22 このキリストにあって、あなたがたもともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。

② 共同教会の責任

『キリストのからだ』と呼ばれる、この共同教会のかしらはイエス・キリストであり、すべての信者は例外なく、その体の器官です。そのため、器官であるすべての信者には、① 頭なるキリストの命令に服従する責任、② 器官としての働きを精一杯するという責任、そして、③ お互いの中に一致を保つという責任があります（ローマ 12:4-5；I コリント 10:32；12:12-23,28；15:9；ガラテヤ 1:13；エペソ 1:22-23；4:15-16,25；コロサイ 1:18；2:1-13,16-21；3:4）。

<ローマ 12:4-5>

4 一つのからだには多くの器官があって、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、

5 大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。

<エペソ 1:22>

また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。

2. 地域教会(=見える教会)

① 地域教会とは

これは、この地球上に点在する、数多くの教会のことです。キリストを唯一真の神、救い主として信じていると告白する人々の集まりです。共同教会(=見えない教会)に救われていない人が属することは有り得ませんが、地域教会(=見える教会)には、信じていると告白しつつも、実は、救われていない人が属している可能性があるために、地域教会に属している全ての人必ずしも真のクリスチャンとは限りません。また、地域の教会には、様々な歴史や聖書解釈の違いなどから生まれた、数多くの教団や教派というものが存在します。しかし、共同教会も、また、地域教会のどちらも、「神の栄光を現す」という目的においては同じなのです。

② 地域教会の責任

地域教会には、私たちの神の偉大さ、その素晴らしさを、この世に知らしめるという大きな責任があります。そのために、私たちはこの神を正しくあがめ、そのみことばに服従して生きることが不可欠です。また、① みことばを学び、そして語っていくこと、② 弟子を作っていくこと(=伝道し、教化していく)、③ 神を常に礼拝すること、④ 祈りを捧げること、⑤ お互いを助け合い合うこと、⑥ 神に喜ばれる家庭を築くこと、⑦ 各自に託されたもの(才能や富、時間など)を神のために用いること、⑧ 互いの徳を高め合う交わりを持つこと、などが必要です。

実は、近年、多くのキリスト教会で、「君は愛されるために生まれた」というようなゴスペルソングやメッセージが発信されていますが、これまた、聖書的であるとは言えません。

…と言いますのも、聖書のみことばは、私たち人間がただ存在したり、愛されることだけで良しとはしないからです。聖書のみことばもイエス様も、共通して、私たちが、「神の愛」を知った者として、その愛をもって、「神と人を愛せよ！」ということ命じているからです。私たちクリスチャンは皆、そのような「目的」のために救われたのです。ですから、私たちは、如何にして、神から与えられた目的を実践することができるのか？ということを考え、聖霊なる神様の助けをいただきつつ、日々、生きていくべきなのです！

<ルカ 10:25-28>

25 すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスをためそうとして言った。「先生。何をしたら永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか。」

26 イエスは言われた。「律法には、何と書いてありますか。あなたはどの読んでいますか。」

27 すると彼は答えて言った。「『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ』、また『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』とあります。」

28 イエスは言われた。「そのとおりです。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」

< Iヨハネ 3:23-24>

23 神の命令とは、私たちが御子イエス・キリストの御名を信じ、キリストが命じられたとおりに、私たちが互いに愛し合うことです。

24 神の命令を守る者は神のうちにおり、神もまたその人のうちにおられます。神が私たちのうちにおられるということは、神が私たちに与えてくださった御霊によって知るのです。

私たち、八田西キリスト教会も、地域教会の一つです。私たちは、神のみことばに正しく従っていくことを願い、神を礼拝し、互いの徳を高め合い、周りの人々に、この神の素晴らしさを伝えていくことを切に求めています。これらのことは、日曜日に教会に集まってくる時にだけ行われることではなく、毎日の生活の中で行われていくことなのです。すでに、キリストの体(=共同教会)に加えられている皆さんは、バプテスマと入会式を通して、地域の教会である、「八田西キリスト教会」に所属する者となります。神を礼拝し、従っていく者として、神に喜ばれる生活をすることによって、益々、神の栄光を教会の内外で現していきましょう！

第4課 八田西キリスト教会とは

1. 八田西キリスト教会の立場

私たちの「八田西キリスト教会」とは、いわゆる、プロテスタント(=新教)の中でも、根本主義の独立教会です。まず、プロテスタント(⇔カトリック、旧教)とは、神のみことばである聖書だけを私たちが信じ従うべき唯一の教えとし、私たちが救われるのは、ただ信仰によるだけであるということを感じている立場の教会のことです。また、根本主義とは、聖書が誤りの無い…、完全なる神のみことばであり、ただ神の恵みにより、イエス・キリストを信じる信仰によってのみ、罪の赦しが受けられると信じるグループのことです。そして、独立教会とは、その運営を独自で行っている教会のことです。ですから、私たちの教会は、他の教会や団体から一切干渉されません。

私たちが、独立教会という立場を選択するのは、教会の運営だけでなく、人間の作った組織の考えや決定などに左右されることなく、ただ、純粋に神のみことばである聖書の教えに従うためなのです。

2. 八田西キリスト教会の教会組織

八田西キリスト教会では、聖書に記されている条件にかなった「霊的リーダー」を、長老たちと会衆が選び、彼らに教会の運営を委ねています。以下がその構成です。

① 牧師、長老

聖書には、『牧師』、『長老』、そして、『監督』と呼ばれる教会のリーダーたちのことが記されていますが、それらは互いに、全く異なった三種類の働き人のことを表しているのではなく、同じ働き人を説明するものです(使徒 20:17-28; エペソ 4:11-13; テトス 1:5-9)。まず、「牧師」(=羊飼)とは、神様から託された羊である教会員を養い育てていくことが、その務めであることを示すために、このような表現が使われています。神様が、御自分のものである教会を牧させるために召され、教会に遣わされたのが牧師です。牧師とは、神が教会のために立てられた者であると、聖書は記しています(エペソ 4:11-13)。また、「長老」とは、「年長の…、白髪の…、年をとった人」という意味ですが、これは、ちょうど年をとった人、つまり、長老がその賢明さのゆえに、この世の人々から尊敬されたように、教会における霊的リーダーである長老も、その霊的な知恵において賢明な人であるところから、このような呼び名が使われたのです。そして、「監督」という呼び名も、教会の霊的リーダーが、神様から託された群全体を監督することが務めであるということを強調するために使われました。

このような霊的リーダーたちの最も大切な働き(=務め)は、みことばを教えることです(そのため、長老には教える賜物が要求されています)。それは、遣わされた教会の聖徒たちの信仰がそれによって成長し、それぞれが神の働き人として奉仕の働きを行うようになるためです(エペソ 4:12)。また、他の長老たち(聖書では常に複数形で書か

れてある)と共に、群れ全体に気を配り、監督することです(I ペテロ 5:2)。つまり、教会とは霊的リーダーである長老たちによって導かれます。彼らの働きは、群れの全体を監督することであり、また、養い育てることなのです。

私たちの教会では、便宜上、みことばによる訓練を行う霊的リーダーたちを「長老」と呼び、その中でも有給の者を「牧師」と呼ぶことにしています。

<使徒 20:28>

あなたがたは自分自身と群れの全体とに気を配りなさい。聖霊は、神がご自身の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、あなたがたを群れの監督にお立てになったのです。

<Iペロ 4:11-13>

11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。

12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、

13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。

②執事

新約聖書において、執事に関する言葉は三種類あります。それらは、①ディアコノス(διάκονος)：奉仕者、使用人、召使い、②ディアコニア(διακονία)：奉仕、世話、接待、③ディアコネオー(διακονέω)：奉仕する、仕える、世話をする、という意味を持つ三つの言葉です。ここからも分かるように、彼らには長老(牧師、監督)の働きを助けるという責任が与えられています。

③聖徒＝信徒

新約聖書で、『聖徒』と訳されているギリシヤ語は、「聖なる者、聖別された人、聖め分かれた者」という意味を持っています。ですから、「聖徒」とは、イエス・キリストによってすべての罪を赦され、神の御用のために、この世から選び分けられた人たちのことを指します。神の恵みによって救われたすべてのクリスチャンは例外なく、「聖徒」であり、神の教会(＝神の家族)に属する兄弟姉妹なのです。

そして、神の教会とは、長老、執事、聖徒が霊的に一致し、愛のうちに建て上げられていくものです。その、教会の大牧者(＝かしら)はイエス・キリストです。その大牧者から遣わされた大切な器が長老たちです。例え、牧師や長老が若くても、尊敬し、大切にし、軽々しく批判しないようにしましょう(I テモテ 5:17-19)。また、みことばに記されてある霊的資質にかなう者として選ばれた執事も、同様に尊敬し、そのリーダーシップに従いましょう。聖徒は、このような教会の霊的リーダーたちが、常に神様のみこころに沿って教会を導いて行くことができるように、彼らの霊性のために祈り続けていくことが

大切なのです。

また、私たちは神様が何を求めていらっしゃるのかをよく吟味しながら歩いていくために、みことばからの知恵を常に求めていくことが必要です。自分の勝手な判断や世の中の基準によって物事を決めていくのではなく、神様のみこころを探りつつ、正しい生涯を全うするために、教会と聖徒たちを導くために与えられているリーダーたちのアドバイスを求めましょう。困ったことがあれば、遠慮なく、長老や執事たちに相談するようにしてください。

< I テモテ 5:17-19 >

17 よく指導の任に当たっている長老は、二重に尊敬を受けるにふさわしいとしなさい。みことばと教えのためにほねおっている長老は特にそうです。

18 聖書に「穀物をこなしている牛に、くつこを掛けてはいけない」、また「働き手が報酬を受けることは当然である」と言われているからです。

19 長老に対する訴えは、ふたりか三人の証人がなければ、受理してはいけません。

3. 八田西キリスト教会の信仰告白

私たち、「八田西キリスト教会」は、以下のことを信じています。

① 聖書について

私たちは、聖書を構成する66の本(旧約39、新約27)はすべて、その原典において、そのすべての部分が平等に(十全靈感)、また、そのすべての言葉が靈感を受けた(逐語靈感)、全く誤りのない神のことばであると信じる。また、聖書だけが、信仰と生活における絶対の規範として、神から人間に与えられた唯一のメッセージであるため、これをその通り信じ受け入れ、また、これに服従する(すなわち、みことばを愛し、学び、伝え、実践する)という責任が、人間にあることを信じる。

② 神について

私たちは、万物すべてを創造され、それを完全な知恵と力で治めておられる唯一の神を信じる。神は永遠に、父、子、聖霊の三位において存在しておられるが、それぞれは本質において同一であり、力と栄光を等しくする、すべての被造物により崇拝を受けるに値する唯一のお方であると信じる。

③ 人間について

私たちは、神によって造られた最初の人間アダムが、自らの意志によって神の命令に逆らい、罪を犯し、その結果、霊的にも肉体的にも死ぬ者となったことを信じる。すべての人は、このアダムにあって罪を犯したため、生まれながら、神に逆らう罪人であり、そのため、神の裁きが約束されていることを信じる。

④ イエス・キリストについて

私たちは、イエス・キリストは真の神であり、真の人間であることを信じる。イエスが聖霊により身ごもった処女マリヤから人として生まれられたのは、罪に汚れた人類を救うためであった。そして、自ら進んで十字架にかかり、人類が受けるべき罪の裁きを代わって受けてくださった。イエスは、約束通り、死後三日目によみがえり、現在、天にあって、私たちのためにとりなしをし、将来、私たちを迎えるために再臨されることを信じる。

⑤ 聖霊について

私たちは、聖霊が神としてのあらゆる属性を兼ね備えたお方であると信じる。聖霊は、人に罪を示し、認めさせるだけではなく、救いへと導かれる。そして、救われた人のうちに内住し、その人を助け、励まし、教え、導き、そして、キリストに似たものへと造り変えていかれることを信じる。

⑥ 救いについて

私たちは、救いとは、救いに関するいかなる希望も、可能性もない私たち罪人に対して、神が一方的に備えてくださった神の恵みの賜物であると信じる。神は、霊的に死んでいた私たち罪人の救いのために救い主を与えてくださり、その贖いの御業を信じる者を例外なく救ってくださる。しかも、その信じる信仰さえも、神が与えてくださる賜物であると信じる。それゆえ、救いとは神の業であり、賜物なのである。

神は、人をその罪の裁きから、また、その力から救い出してくださるだけでなく、神に喜ばれる新しい歩みへと導かれる。この救いは、永遠に続く、決して失うことのないものであり、人が救われたその瞬間から、その人をキリストに似た者へと変える聖霊の働きが始まると信じる。

⑦ 教会について

私たちは、教会が、神の恵みによりこの世から召し出されたクリスチャンの集まりであると信じる。クリスチャンは、そのかしらであるイエス・キリストに服従するという責任を負っている。それは、すなわち聖書のみことばに従うことである。神が教会に与えられた使命は、弟子作り、すなわち、福音宣教と、信者の教化(⇒教えて感化すること)であると信じる(マタイ 28:19-20)。そのために、教会はみことばを学び、その教えに服従し、神を礼拝し、礼典(=バプテスマと聖餐式)を守り、伝道し、教化に励み、それぞれの霊的賜物を用いて互いに仕え励まし合い、そして、再臨を待ち望むのである。

⑧ 終末について

私たちは、イエス・キリストが、その花嫁である教会を迎えに来られる日を待ち望んでいる。その時、既に死んでいた信者が栄光の体を持ってよみがえり、次に、生き残っている信者が栄光のからだに変えられて、空中で主キリストにお会いすると信じる。この空中再臨後、七年間の患難時代を経て、イエスはこの地上に再臨され世を裁かれる。

その後、千年時代を経て、キリストはサタンと悪霊に対して、また、キリストを信じなかった者すべてに対する裁きを行われる。キリストを信じ救われた者に約束されている永遠のいのちとは異なり、信じなかった者には永遠の刑罰が約束されていると信じる。その後、千年王国時代を経て、サタンと悪霊、また、神を信じなかった罪人を永遠に裁かれる。彼らには永遠の刑罰が与えられていることを信じる。

第5課 八田西キリスト教会員の責任とは

1. 神を礼拝する

神によって造られ…、また、その神によって救われた私たちクリスチャンの1番の責任は、私たちのかしらであられる神の栄光を現していくということです(イザヤ 43:7; ローマ 12:1-2; I コリント 6:19-20; 10:31; エペソ 1:3-14)。これは、神様から何かを受けるという
ような行為ではなく、逆に、私たち自身を神にお捧げし、全身全霊をもって神様を愛して
いくという生き方のことです。

日曜日(=主日)に行われる礼拝は、ある意味において、その集大成であるとも言えるでしょう。何故なら、例え、礼拝の場に出席していたとしても、その時、神様に喜ばれない思いを持っていたり、神様に逆らった生き方をしたりしていたのでは、決して、神様はその礼拝を喜んでくださらないからです。そういう訳ですから、私たちは、日曜日の特定の時間だけに行われるものだけを礼拝と考えるべきではありません。1日の24時間、1週間の7日、私たちの行いだけでなく、その考えや生き方に至るまで…、そのすべてを神様が喜んでくださるように捧げ続けていくことが、神様の望んでおられることなのです。

<ローマ 12:1-2>

- 1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。
- 2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

どうぞ、八田西キリスト教会の教会員となられるあなたは、神を第一とし、その一瞬一瞬を神に捧げていくように歩んでください。あなたの心からなる礼拝を、私たちの主であられる神様は喜んでくださるでしょう。

また、礼拝というものが神への捧げ物であるからこそ、主日礼拝に集われる皆さんも、周囲に目を配り、新しい方や困っている方、また、助けが必要な方などがおられないかどうかを見て、主が自分に示してくださっていることを探しつつ、教会にお越しくださり…、家庭や地域にあっても、『地の塩、世の光』として歩んでくださることをお勧めいたします(マタイ 5:13-16; エペソ 2:10; ピリピ 2:12-16)。

<マタイ 5:13-16>

- 13 あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。
- 14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。

15 また、あかりをつけて、それを柀の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。

16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。

<エペソ 2:10>

私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。

2. みことばを学ぶ

私たちが、益々、神に喜ばれるクリスチャンとして成長していくために、みことばの学びは欠かすことができません(Ⅱテモテ 3:16-17; Iペテロ 2:2)。また、私たちの主イエス・キリストが昇天される際、弟子たちに命じられた大命令(マタイ 28:18-20)を果たすためにも、私たちは、何よりもまず、みことばを熱心に学ぶ者でなくてはなりません。教会の提供している様々な学びへの出席はもちろんですが、その他、(教会図書の)信仰書や、個人のデボーション(個人で静まってみことばを読み、学び、瞑想すること)などを積極的に活用してください。

< I ペテロ 2:2 >

生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。

3. 伝道する

私たちクリスチャンとは、私たち人間の死後に永遠というものがあるということ…、そして、その永遠には、自らの犯した罪の罰である裁きを受けるか、あるいは、神様から罪の赦しをいただいて永遠を祝福の内に過ごすかの、2つしか無いことを知っている者です(マタイ 25:31-46)。ですから、私たちは、この救いのメッセージ(=福音)を伝えていかなければなりませんし(ローマ 10:9-14)、また、伝えずにはおれないはずで。

どうぞ、私たちの愛する家族…、ご友人、また、同僚やご近所の方々に、この福音を伝えていく者であってください。また、教会で行われる様々なプログラムなどを有効に活用して、そういった集会などに、いろんな方々をお誘いしてくださることを期待します。

<マタイ 25:34、41、46>

34 そうして、王は、その右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。』

41 それから、王はまた、その左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火に入れ。』

46 こうして、この人たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入ります。』

<ローマ 10:13-14>

13 「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」のです。

14 しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。

4. 神から与えられた賜物を生かして、神と教会とに仕える

神様によって救われたクリスチャンには、誰一人例外なく、神様から、「霊的な賜物」というべき特性が与えられています。それは生まれつき持っている才能のことなどではなく、イエス様を信じて救われた瞬間に、聖霊なる神様の内住と共に与えられた神様からのプレゼントです（I コリント 12 章）。

神様は、それをあなたが教会の中で用いることによって、教会全体を成長させ、その教会を通して、神の栄光を現そうとくださっているのです。ですから、決して、教会の中で、ゲスト（＝お客様）にならないでください。イエス様を信じて救われたあなたは…、そうして、バプテスマを受けることによって、正式に、八田西キリスト教会の教会員となられたあなたは、もはや、ゲストではありません。教会の一部であり、主の働き人なのです。

教会の中で自分のできること…、例えば、教会の必要を満たせること、人の徳を高めること、困っている方々の助けになるなどを積極的に始めていってください。あなたがそうしていく時に、神は、あなたに与えられた賜物を益々磨き…、あなたにみこころを示していただくのです（ピリピ 2:12-16）。

<ピリピ 2:12-16>

12 そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。

13 神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。

14 すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。

15 それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中にあって傷のない神の子どもとなり、

16 いのちのことばをしっかりと握って、彼らの間で世の光として輝くためです。そうすれば、私は、自分の努力したことがむだではなく、苦勞したこともむだでなかったことを、キリストの日に誇ることができます。

5. その他

① 聖餐式への参加

聖餐式で配られるパンと杯はキリストの死、すなわち、キリストのからだに裂かれ、血が流されたことを象徴的に表しています（I コリント 11:23-32）。主イエス・キリストを自分の救い主と信じ、その信仰を公にして、キリストに服従していくということを、バプテス

マを受けることによって表明した人が、これにあずかります。これは、神によって救われた者が神を第一とし、キリストの犠牲を通して、罪の赦しに入れられ、新しいいのちをいただいていることを覚え、己の生活を吟味し、神への感謝と献身の思いを新たにする時です。

また、主イエス・キリストへの感謝と服従を吟味する、この時は、兄弟姉妹がキリストのいのちにあずかって、一つであることをも表しています。聖餐式を軽んじる者は、主イエス・キリストとその約束とを軽んじる者です。何故なら、キリストご自身がこれを覚えて行うように命じられたからです。どうぞ、できるだけ、この聖餐式にも参加し、主の犠牲を覚え、自分自身の生き方を吟味する者であってください。

②献金に関して

『神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。…』(ヨハネ 3:16)というみことばの通り、神は、私たちを愛して、御自分の御子をさえ惜しまずに与えてくださいました。私たちは、この神の愛と恵みに対する応答として、私たちの全存在と全生活とを惜しみなく捧げるべきです(ローマ 12:1-2; II コリント 8:4; II コリント 9:5)。献金とは、礼拝の一行為であり、神の恵みに対する感謝と献身の具体的な表現でもあります。ですから、献金とは、いわゆる、会費や説教の拝聴料やお賽銭、お布施などとは根本的に違います。また、献金は、教会の必要を満たし、キリストの大命令(マタイ 28:18-20)を遂行するためにも必要です。私たちは、キリストへの信仰表明として、また、キリストの大命令に従うために喜んで献金をします。それによって、神の御業に参加させていただくのです。

< II コリント 8:2-4 >

- 2 苦しみゆえの激しい試練の中にあっても、彼らの満ちあふれる喜びは、その極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て、その惜しみなく施す富となったのです。
- 3 私はあかしします。彼らは自ら進んで、力に応じ、いや力以上にささげ、
- 4 聖徒たちをささえる交わりの恵みにあずかりたいと、熱心に私たちに願ったのです。

< II コリント 9:5 >

そこで私は、兄弟たちに勧めて、先にそちらに行かせ、前に約束したあなたがたの贈り物を前もって用意していただくことが必要だと思いました。どうか、この献金を、惜しみながらするのではなく、好意に満ちた贈り物として用意しておいてください。

献金は、聖書の原則に従ってささげることが大切です。献金は、決して強いられてするものではなく、各自が自由に、かつ、自発的に行うべきものです。この原則は旧約時代も新約時代も同じです(申命記 16:10,17; II コリント 9:7)。献金は、各自の収入に応じて、また持っている程度に応じて捧げます(I コリント 16:2; II コリント 8:2-12)。(集会)献金は、あらかじめ心づもりして準備しておきましょう(I コリント 16:1-2)。

<Ⅱコリント 9:6-8>

- 6 …少しだけ蒔く者は、少しだけ刈り取り、豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります。
7 ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださいます。
8 神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。

献金には、月定献金、集会献金、感謝献金、特別献金、指定献金などの種類があります。月定献金のことを、教会によっては、^{じゅういち}十一献金とか聖別献金などと呼びます。これは、各自が、(基本的には、)毎月一定額を捧げる献金のことです。この献金は、教会の経常費の主要な財源ですから、毎月確実に、しかも継続的に捧げます。旧約時代には、収入の十分の一を捧げない民に対して、神のものを盗んでいると非難されています(マラキ 3:8)。恵みの時代である現代を生きている私たちに、この原則が必ずしも当てはまる訳ではありませんが、神から与えられたものを正しく管理し、神に喜ばれるように用いることが必要です。どうぞ、主のなしてくださった御業を覚えて、犠牲的、かつ、喜びをもって捧げるよう心掛けてください。

集会献金とは、礼拝やその他の集会の時に集められる献金のことです。感謝献金は、夏期や冬期の臨時収入があった時に、感謝を込めて捧げるものです。特別献金とは、バプテスマを始め、出産や入学、卒業、婚約、結婚、全快、新築、退職、召天などの時に、感謝や記念の意を込めて捧げるものです。指定献金とは、個人的に重荷を持っている働きや目的のために使われることを指定して捧げる献金です。

③会員総会への参加

会員総会とは、教会の決算や運営方針などを報告し、話し合うための重要な集会のことです。正式な教会員となったあなたには、この会員総会に参加する義務が生じます。教会の運営に関して無関心になるのではなく、「主が私たちの教会を通して、どのような素晴らしいことをなして下さっているか。また、自分のなすべきことは何か？」という視点で、積極的に会員総会に参加するように心掛けてください。なお、会員総会には、定期的に行われる定例の会員総会と、必要に応じて開催される臨時の会員総会とがあります。

バプテスマクラス(あるいは、転入会クラス)を受講されたあなたには、その後、諮問を受けていただきます。諮問とは、あなたが、神様の与えてくださった福音を正しく理解し、本当に救われているかどうかを再確認するためのものです。その諮問の後、入会式を経て、あなたは、正式に八田西キリスト教会の一員となります。

八田西キリスト教会の教会員となられたあなたには、以上のような責任があります。これらの責任はすべて、神様のみこころに従うことであり、神様の栄光を現すことです。どうぞ、

神が喜んでくださることを実践していきましょう。そして、益々、真唯一の神を礼拝する者として…、キリストの証し人として…、歩み続けていってくださることを期待いたします。